

自己評価結果公表

1. 本園の教育目標

キリスト教的人間観に基づき、幼児の個性を尊重し、適当な環境を与えて、心身共に健康で調和の取れた発達を助長する。

2. 28年度、重点的に取り組む目標・計画

子どもたち自身が安心して自分のやりたいことを選び行っていく保育を展開し、その中で子どもたち一人ひとりが大切にされていることを知り、神さまの愛を感じ取ってゆくというカトリック園としての使命を果たしていくために、教職員一人ひとりが日々研鑽する。

3. 評価目標の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新人教諭2名を迎えての体制の中、園舎の建て替えという大事業を行う一年となったが、キャリアのある教諭が中心となり、丁寧に新人教諭を指導するなど、職員全体のスキルアップのため努力した。</li> <li>・特別支援の子どもに対する対応は、常勤職員だけでなく非常勤職員も加えてケース会議を持ち、職員間の共通認識、理解をもって取組んだ。</li> <li>・仮設園舎での生活となったが、子どもたちの発達に合わせた教具を工夫し、子どもたちが自ら選んで物事を行えるよう環境整備を心掛けた。</li> <li>・月に一度の神父様による園内研修において全教職員が建学の精神であるカトリックの教えについて見識を深めた。</li> </ul>
職員間の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設園舎と本園舎が道路を挟むため、非常勤教諭も携帯電話を持ち常に連絡を心掛けた。</li> <li>・子どもの様子を全職員が共有できるよう朝礼、終礼での報告を密にしたことで、特別支援の子どもたちにも全職員がかかわることができた。</li> <li>・園長と教職員においては工事の工程、配慮などについても話し合いを多く持った。</li> </ul>
安全確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建て替えのため、非常勤職員を増員し、警備員の方とも親しく子どもたちが関わることで、多くの目で子どもたちの安全を確認することができ、工事による怪我などはなかった。</li> <li>・いつもと違う環境での生活のため、朝は必ず園内を見回り、危険な状態がないか職員全員で確認した。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭の使用が制限されたため、園外に出かける機会も増えた。公園などでは飼い犬との接触などがあり、ヒヤリとする場面もあったため、様々な場面を想定しての危険回避の方法を話しあう機会を設けた。職員増加となる今後も引き続き課題としていきたい。</li> </ul>
保護者・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任だけでなく全教員が、子どもたちの様子を、日々丁寧に保護者の方に伝えることができた。</li> <li>・工事に対してご近隣からの苦情を受けたときは、施工会社と連携し、即解決を心掛け、大きな苦情には至らなかった。</li> <li>・園外保育の中で近隣の方々が声をかけてくださることが多く、子どもたちも恥ずかしがらずに挨拶をすることができるようになった。</li> <li>・旧園舎の取り壊しの際に卒園児の方々や、今までお世話になった方々にお声かけをし、園舎のお別れ会を行ったことで、今までの幼稚園の歩みの中でかかわって下さった方と、現在の歩みの中にいる人たちがつながる機会となった。</li> </ul>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>保護者の方からは全体としては良い評価をいただいているが、情報の発信については3以下の評価が25%あったため、今後の課題として取り組んでいきたい。2学期より本園舎解体・建築工事とともに仮設園舎での保育となったため、行事の日時や場所、日々の保育などが例年とは異なる一年となった。安全面への配慮を最優先にしながら、子どもたちの中に「工事」ということを保育の中に取り入れていくように工夫を重ねた。結果、親子で毎日の様子を話し合っ下さる姿が見られたり、細かな描写の工事現場の絵画に取り組むことができた。カトリックの教えについては教員全体での園内研修などで共有できるよう心掛けたが、引き続き研鑽していきたい。認定こども園に移行をした後も、今までの教育を変えることなく、教職員一丸となってより良い施設運営を心掛けていきたい。</p>
--

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教職員のスキルアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員一同、教員としてふさわしい態度を身に着ける</li> <li>・1歳～就学前の発達段階を踏まえ、子どもたちが自ら進んで物事を行えるような環境の研究と実践を行う。</li> <li>・園内研修などを通して教職員全員がキリストの愛について知り、子どもたちにその愛を伝えていく。</li> </ul>
職員間の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼保連携型認定こども園としての初めての1年となるため、様々な課題が出てくるのが予測されるが、職員間で報告、連絡を密に行い話し合いなが進めていく。</li> <li>・園内研修において分かち合いの時間も持ち、多様な働き方になった職員同士が信頼しあえる関係を作る。</li> </ul>

安全確保	・乳幼児の安全に生活できるよう、日々の点検を行い、配慮していく。
成長に合わせた環境設定	・1歳から就学前子どもたちの発達の連続性を踏まえたうえで、一人ひとりに合わせた環境設定を研究し実践する。 ・子ども主体で、子ども自身が自ら考え、選び、活動できるよう室内・園庭の環境を整える。
保護者・地域との連携・情報発信	・小学校との連携を図る ・子育てサロンや育児相談など地域の方にも利用して頂き、地域の中での施設の役割を果たしていく。 ・幼稚園での保育方針を保護者の方と共有し、ともに子どもたちの成長のために進んでいけるよう働きかける。

◎ 29年度、重点的に取り組む目標・計画

幼保連携型認定こども園としてのスタートの年となる。1歳児から就学前の子どもたちの発達の連続性を職員全員が十分に認知し、一人ひとりの成長に合わせた環境を整えていく。  
また、小学校や地域との連携も図り、開かれた施設づくりを目指す。

◎ 29年度の評価項目

・教職員のスキルアップ ・職員間の連携 ・成長に合わせた環境設定 ・安全確保  
・保護者、地域への発信 ・情報発信

6. 学校関係者の評価

学校評価は適正に行われていると判断できます。